

# 地域における知的障害児の両親の育児意識と社会心理的状況

## Research Study on the Psychosocial Situations of Parents of Mentally Retarded Children in the Community

松本 耕二 (山口県立大学社会福祉学部)  
Koji MATSUMOTO  
三原 博光 (県立広島大学保健福祉学部)  
Hiromitsu MIHARA  
豊山大和 (近畿福祉大学社会福祉学部)  
Hirokazu TOYAMA

### I. はじめに

1970年代にわが国においてもヨーロッパで提唱されたノーマライゼーションの原理が紹介されてから、閉鎖的であった入所施設の知的障害者の生活が一般市民と同等の正常な日常生活を行うように改善され、知的障害者も地域で自立した社会生活を送れるようコミュニティ・ケアが中心となってさまざまな援助の必要性が主張されてきた。1980年代に入ると国際障害者年により、知的障害者の社会参加が重視され社会全体に知的障害者に対する理解や援助などの認識が芽生えてきた。また社会福祉行政では、行政主導の措置制度から知的障害者とその家族の福祉サービスの選択を重視する障害者支援費制度と地域における知的障害者の就職や社会的自立を要求する障害者自立支援法へ変わり、表面上、知的障害者とその家族の人権や社会生活が尊重されるようになってきたようにみえる。

実際に、知的障害者とその家族は、地域社会のなかで行政や地域からの支援を受けながらも他の市民と同様に安定した社会生活を送っているのか、地域社会のなかで知的障害児の家族が実際にどのような生活をしているのかを明らかにされていないことが多いことから、知的障害児をもつ両親に注目してみた。

知的障害者家族の問題を取り扱った先行研究は、知的障害児の両親、特に母親に対する直接的援助を行った報告や両親の夫婦関係や母親の育児意識実態を調べた調査報告などが散見される

(Polansky et.al,1971<sup>1)</sup>,Nurse,1972<sup>2)</sup>,小笠原,1978<sup>3)</sup>,稲浪ら,1980<sup>4)</sup>橋本,1980<sup>5)</sup>,稲浪,1982<sup>6)</sup>,Kratochvil & Devereux,1988<sup>7)</sup>,三浦,1992<sup>8)</sup>,イナホフファーとペテランダー,1995<sup>9)</sup>、清水と及川,1995<sup>10)</sup>)。これら先行研究から、知的障害児の養育の中心は母親や父親であること、また知的障害児の両親を援助し、両親の問題が改善されることが知的障害児の問題にも影響し改善されると考えられていることがわかる。

そこで本研究では、知的障害児の両親の育児意識に着目し、その心理社会的状況を具体的に明らかにすることで、福祉援助の方向性が明確になるのではないかと考え、調査を実施したので、その結果を報告したい。

### II. 研究方法

#### 1. 調査対象者

18歳以下の知的障害児をもつ両親(父親、母親もしくは保護者を含む。)を対象とした。本研究では、山口市、西宮市、福岡市にある知的障害者通所授産施設、入所更正施設および知的障害者育成会等に関わる知的障害者の親達を調査対象者とした。なお本調査は回答者と障害者自身のプライバシーに関する事柄とも関係していることに配慮し、アンケート調査の受諾を頂けた団体を通して実施した。

#### 2. 調査方法

質問紙によるアンケート調査を実施した。調査は、アンケート調査協力の承諾を頂いた団体の代

地域における知的障害児の両親の育児意識と社会心理的状況

表者を通して知的障害者の両親に質問紙を配布した。質問紙の回収には各団体への留め置きと返信用封筒を用いた郵送法の併用で行った。なお調査期間は2004年4月から2005年3月までの1年間で100名の有効回答を得た。

### 3. 調査内容

本研究のアンケート内容は以下の通りであった。

- (1) 子どもとの交流：①子どもと気持ちが通い合っていると思う②子どもは自分の生きがいである③これからの育児が楽しみである④子どものことでくよくよ考える⑤ちょっとしたことで子どもを叱る⑥育児につまずくと自分を責める (1.よくあてはまる～4.全くあてはまらない)
- (2) 身体症状：①頭が重い②全身がだるい③頭がぼんやりする④横になりたい⑤考えがまとまらない⑥根気がなくなる (1.全くその通り～4.全くあてはまらない)
- (3) 相談相手：①育児に関する悩みを聞いてくれる人はいるか (1.はい2.いいえ) ②いる場合は、誰か
- (4) 育児に対する周囲からの援助：①夫・妻は私のことを助けてくれる②親や親戚に困ったことを打ち明ける③友人は私のことを助けてくれる④近所の人は私のことをわかっている⑤近所の人は私のことを助けてくれる (1.全くその通り～4.全くあてはまらない)
- (5) ストレス：①育児において一番ストレスを感じるとき②ストレス解消法 (複数回答)
- (6) 両親の運動やスポーツ活動：①日常的にどの程度運動やスポーツ活動を行っているか (1.していない～6.ほとんど毎日)
- (7) 知的障害児の運動やスポーツ活動：①日常的にどの程度で運動やスポーツ活動を行っているか (1.していない～6.ほとんど毎日) ②行っている場合、どこで行っているのか③行っている場合、誰と
- (8) フェイスシート
  - ①両親 (記入者) 年齢②障害児性別③障害児年齢④障害児出生順位⑤障害の程度⑥居住場所

以上、8要因31項目で、質問紙への回答はリッカートタイプの尺度を用いた選択肢と自由記述によるものとした。

表1 サンプルの属性

	度数	%
<u>記入者</u>	<u>n=99</u>	
母親	93	97.2
父親	5	1.4
祖父	1	1.4
<u>記入者年代</u>	<u>n=95</u>	
20歳代	1	1.1
30歳代	18	18.9
40歳代	64	67.4
50歳代	12	12.6
	平均年齢43.2±5.4歳	
<u>障害児年齢 (学校別)</u>	<u>n=92</u>	
未就学	7	7.6
6-12歳	38	41.3
13-15歳	21	22.8
16-18歳	26	28.3
	平均年齢14.2±2.5歳	
<u>障害児性別</u>	<u>n=94</u>	
男	68	72.3
女	26	27.7
<u>障害児の出生順位</u>	<u>n=93</u>	
第一子	41	44.1
第二子	32	34.4
第三子	17	18.3
第四子	3	3.2
<u>障害名 (複数回答)</u>	<u>n=111</u>	
知的	77	69.4
肢体不自由	4	3.6
言語・聴覚	6	5.4
自閉	22	19.8
その他	2	1.8
<u>障害程度</u>	<u>n=98</u>	
重度	63	64.3
中度	22	22.4
軽度	13	13.3
<u>記入者の就労状況</u>	<u>n=97</u>	
仕事はしていない	53	54.6
外でフルタイムの仕事	7	7.2
外でパートタイムの仕事	20	20.6
家で店を営むなど自営業	5	5.2
在宅での仕事	7	7.2
その他	5	5.2
<u>記入者の睡眠時間</u>	<u>n=99</u>	
4時間	4	4.0
5時間	21	21.2
6時間	48	48.5
7時間	20	20.2
8時間以上	6	6.1

### Ⅲ. 調査結果及び考察

#### 1. サンプルの属性

本研究では100名の有効回答が得られた。記入者の内訳は、母親93名(93.9%)、父親5名(5.3%)、祖父1名(1.0%)であり、ほとんどが養育の中心となる母親が回答している。サンプル(以後、回答者であるサンプルを両親と記述する。)の年齢は、30歳代18名(18.9%)、40歳代64名(67.4%)、50歳代以上12名(12.6%)であり8割が40歳代以上であった。両親の子どもらである知的障害児の年齢は、6-12歳38名(41.3%)、13-15歳21名(22.8%)、16-18歳代26名(28.3%)で、性別は男子68名(72.3%)、女子26名(27.7%)であった。障害者の種類は、知的障害が77名(69.4%)、自閉症22(19.8%)、肢体不自由児4名(3.6%)で、障害の程度は重度63名(64.3%)が最も多く、ついで中度22名(22.4%)、軽度13名(13.3%)の順となっている。知的障害児の出生順位は、第一子が41名(44.1%)、第二子32名(34.4%)、第三子17名(18.3%)であり、7割強が第一もしくは第二子であった。

次にサンプルの就労状況についてみると、仕事をしていない53名(54.6%)、外でパートタイム20名(20.6%)、自営業が5名(5.2%)であり、フルタイムの就労はわずか4名(5.5%)で、半数以上

が就労していない状況にあった。この就労状況は障害児の障害の程度において差がみられ、重度の障害児を持つ両親(以後、重度の両親と表現する。)は、軽度の両親に比べ就労していない(重度の両親：軽度の両親=63.8%：22.2%)状況であることがわかる。さらに「外でのパートタイムでの仕事」では軽度の両親は重度の両親に比べて就労している(重度：軽度=14.9%：55.6%)。これは重度の両親は子どもの世話・介助に追われて働く時間が少ないことが推察されよう。

両親の睡眠時間は、約6時間48名(48.5%)、5時間21名(21.2%)、7時間20名(20.2%)の順にあったが、約4時間が4名(4.0%)あった。少ない睡眠時間で子どもの育児や家事に追われている両親もいることがわかる。

#### 2. 子どもとの交流

##### ①子どもと気持ちが通い合っていると思う

「よく思う」と「やや思う」が合わせて76名(77.6%)であり、知的障害児との気持ちの交流を感じていた。一方で2割強が「あまり」もしくは「まったく」感じていない。

##### ②子どもは自分の生きがいである

「よく思う」と「やや思う」が合わせて72名(72.7%)が、知的障害児の育児を生きがいと

表2 障害のある子どもとの交流

項目	度数	よくあてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		まったくあてはまらない	
		n	行%	n	行%	n	行%	n	行%
子どもと気持ちが通い合っていると思う	98	23	23.5	53	54.1	21	21.4	1	1.0
これからの育児が楽しみである	98	9	9.2	36	36.7	48	49.0	5	5.1
子どもと一緒にいると楽しい	100	20	20.0	56	56.0	24	24.0	0	0.0
子どものことでよくよ考える	99	23	23.2	29	29.3	43	43.4	4	4.0
育児によって自分も成長していると思う	100	39	39.0	42	42.0	18	18.0	1	1.0
時間を子どもにとられて視野が狭くなる	100	6	6.0	26	26.0	47	47.0	21	21.0
毎日同じことの繰り返しで息が詰まるようだ	98	8	8.2	28	28.6	47	48.0	15	15.3
育児のために自分は我慢ばかりしていると	98	4	4.1	23	23.5	59	60.2	12	12.2
自分ひとりで子どもを育てているように思う	99	8	8.1	29	29.3	44	44.4	18	18.2
子どもは自分の生きがいである	99	23	23.2	49	49.5	25	25.3	2	2.0
ちょっとしたことで子どもを叱る	99	8	8.1	39	39.4	45	45.5	7	7.1
育児につまづくと自分を責める	99	13	13.1	34	34.3	42	42.4	10	10.1

表3 身体症状

項目	度数	まったくその通り		ややその通り		ややちがう		まったくちがう	
		n	行%	n	行%	n	行%	n	行%
頭が重い	99	10	10.1	34	34.3	29	29.3	26	26.3
全身がだるい	100	14	14.0	41	41.0	25	25.0	20	20.0
頭がぼんやりする	99	8	8.1	34	34.3	35	35.4	22	22.2
横になりたい	99	26	26.3	36	36.4	19	19.2	18	18.2
考えがまとまらない	100	12	12.0	38	38.0	33	33.0	17	17.0
根気がなくなる	100	20	20.0	38	38.0	26	26.0	16	16.0

考えていた。他方「あまり思わない」と「全く思わない」が27名(27.3%)と回答している。

③これからの育児が楽しみである

「よく思う」と「やや思う」が合わせて45名(45.7%)であったが、「あまり思わない」と「全く思わない」が合わせて53名(54.1%)と、過半数が将来の知的障害児の育児は楽しみと考えていなかった。

④子どものことでよくよ考える

「よく思う」と「やや思う」が合わせて52名(52.5%)、「あまり思わない」と「全く思わない」が47名(47.4%)と回答がほぼ半々で、複雑な心境であることが推察された。

⑤ちょっとしたことで子どもを叱る

「あまり思わない」と「全く思わない」47名(47.5%)、「よく思う」と「やや思う」52名(52.6%)であり、些細なことでは子どもを叱らず辛抱する両親と、叱ってしまう両親とが半々であった。

⑥育児につまずくと自分を責める

「よく思う」と「やや思う」は合わせて47名(47.4%)、「あまり思わない」と「全く思わない」が52名(52.5%)と回答し、若干「思わない」と言う回答の方が多くみられた。それでも約半数近くの両親は育児につまずくと自責の念があることがわかる。

3. 身体症状

①頭が重い：「よく思う」と「やや思う」が44名(44.4%)、「あまり思わない」と「全く思わな

い」が55名(55.6%)であり、ほぼ半数弱が頭が重いと感じている。

②全身がだるい：「よく思う」と「やや思う」が55名(55.0%)、「あまり思わない」と「全く思わない」が45名(45.0%)であり、ほぼ半数強が全身がだるいと感じている。

③横になりたい：「よく思う」と「やや思う」が62名(62.7%)、「あまり思わない」と「全く思わない」が37名(37.3%)であり、疲れて横になりたいという両親の方が多くみられた。

④考えがまとまらない：「よく思う」と「やや思う」が50名(50.0%)、「あまり思わない」と「全く思わない」が50名(50.0%)であった。

⑤根気がなくなる：「よく思う」と「やや思う」が58名(58.0%)、「あまり思わない」と「全く思わない」が42名(42.0%)であり、6割弱が根気が無くなると回答している。

身体症状についての回答結果は、ほぼ半数にかけ明確な傾向はみられないが、知的障害児の両親の半数は、育児や家事などから身体的な疲労感を有しているといえよう。

表4 相談相手

	度数	%
相談相手(育児の悩み)の有無	n=96	
いる	87	90.6
いない	9	9.4
相談相手(1位)	n=89	
夫・妻	33	37.1
両親(祖父母)	9	10.1
家族・親族(兄弟姉妹等)	3	3.4
友人・知人	35	39.3
先生(主治医・学校担任)	3	3.4
グループの仲間(地域・学校)	6	6.7

表5 育児に対する周囲からの援助

項目	度数	まったくその通り		ややその通り		ややちがう		まったくちがう	
		n	行%	n	行%	n	行%	n	行%
夫・妻は私のことをわかっています	95	19	20.0	42	44.2	31	32.6	3	3.2
夫・妻は私のことを助けてくれます	95	20	21.1	46	48.4	24	25.3	5	5.3
両親や親戚に困ったことを打ち明けます	100	11	11.0	46	46.0	32	32.0	11	11.0
両親や親戚は私のことを助けてくれます	99	28	28.3	43	43.4	22	22.2	6	6.1
友人は私のことをわかっています	99	22	22.2	65	65.7	12	12.1	0	0.0
友人は私のことを助けてくれます	97	20	20.6	58	59.8	18	18.6	1	1.0
近所の人は私のことをわかっています	95	6	6.3	35	36.8	37	38.9	17	17.9
近所の人は私のことを助けてくれます	96	4	4.2	25	26.0	39	40.6	28	29.2

4. 相談相手

- ①育児に関する悩みを聞いてくれる人はいるか  
「いる」87名(90.6%)、「いない」9名(9.4%)と回答し、ほとんどの両親は育児に関する悩みを聞いてくれる人がいた。一方で1割がいないとしている。
- ②「いる」場合は、誰か  
「友人・知人」35名(39.3%)、「夫・妻」33名(37.1%)、「両親(祖父母)」9名(10.1%)、「グループ仲間(地域・学校)」6名(6.7%)であった。両親は、夫や妻とする伴侶や祖父母の身内とともに、「友人・知人」が育児の悩みを聞いてくれる存在として大切な存在であることがわかる。

5. 育児に対する周囲からの援助

- ①夫・妻は私のことを助けてくれるか  
「思う」が66名(69.4%)、「思わない」が29名(30.6%)と回答し、約7割が伴侶である夫・妻が助けてくれると回答しているが、一方で3割が助けてくれないと回答していた。
- ②親や親戚に困ったことを打ち明ける  
「思う」が57名(57.0%)、「思わない」が43名(43.0%)と回答しており、親族には打ち明けていない実情もあることは少なくない。
- ③友人は私のことを助けてくれる  
「思う」が78名(80.4%)であり、8割は友人が助けてくれると回答している。

④近所の人は私のことをわかっている

「思わない」が54名(56.8%)、「思う」が41名(43.1%)と回答し、近所の人は、障害児をもつ自分のことをわかっているのではないかと感じていた。

⑤近所の人は私のことを助けてくれる。

「思わない」が67名(69.8%)、「思う」が29名(30.2%)と回答し、大部分が近所の人が助けてくれないと感じていた。

6. ストレス

①育児において一番ストレスを感じる時

「子どもが言うことを聞かないとき」34名(34.0%)、「夫・妻が育児に協力的でないとき」26名(26.0%)、「子どもが病気になったとき」18名(18.0%)であり、育児で思い通りにならないときや身近なパートナーからの援助がないときにストレスを強く感じていた。

②ストレス解消法(複数回答)

「友人や家族とおしゃべりをする」42名(42.4%)、「外に出かける」16名(16.2%)などであった。

7. 両親の運動やスポーツ活動

①日常的にどの程度、運動やスポーツ活動を行っているか

「していない」53名(53.5%)、「週に1回ぐらい」16名(16.2%)、「月に1-2回ぐらい」10名

表6 ストレス

	度数	%
<b>ストレスを感じる時</b> <u>N=100</u>		
子どもが言うことを聞かないとき	34	34.0
子どもが部屋を汚したとき	6	6.0
子どもが物を壊してしまったとき	4	4.0
夫・妻が育児に協力的でないとき	26	26.0
子どもが病気になったとき	18	18.0
その他	12	12.0
<b>ストレス解消法・気分転換(複数回答)</b> <u>N=291</u>		
友人や家族とおしゃべりする	71	24.4
仕事に打ち込む	14	4.8
外へ出かける	51	17.5
夫・妻に八つ当たりする	3	1.0
好きなものを食べる	31	10.7
子どもに八つ当たりする	2	0.7
本や雑誌を読む	28	9.6
タバコを吸う	3	1.0
練る	22	7.6
音楽を聴く	16	5.5
お酒を飲む	15	5.2
スポーツ・運動など、身体を動かす	18	6.2
その他	16	5.5
特になし	1	0.3

表7 運動・スポーツ活動

	度数	%
<b>両親の運動・スポーツ活動</b> <u>N=99</u>		
していない	53	53.5
年に数回くらい	9	9.1
月に1-2回くらい	10	10.1
週に1回くらい	16	16.2
週に2-3回くらい	9	9.1
ほとんど毎日	2	2.0
<b>障害児の運動・スポーツ活動</b> <u>N=99</u>		
していない	31	31.3
年に数回くらい	5	5.1
月に1-2回くらい	12	12.1
週に1回くらい	26	26.3
週に2-3回くらい	20	20.2
ほとんど毎日	5	5.1
<b>主な運動実施場所</b> <u>N=63</u>		
スイミング	12	9.5
学校	2	4.8
福祉センター	17	26.2
ボウリング場	3	7.1
公園や空き地	3	7.1
地域のクラブ	22	40.5
その他	4	4.8
<b>主な運動実施相手</b> <u>N=62</u>		
父・母	10	16.1
兄弟姉妹	1	1.6
先生・指導者	20	32.3
ボランティア	27	43.5
職員	3	4.8
その他	1	1.6

(10.1%)であり、半数強の両親は運動やスポーツを全くしていないことがわかった。

#### 8. 知的障害児の運動やスポーツ活動

①日常的にどの程度、運動やスポーツ活動を行っているか

「していない」31名(31.3%)、「週に1回くらい」26名(26.3%)、「月に2-3回くらい」20名(20.2%)であった。両親に比べると子どもである知的障害児らは運動やスポーツをする割合は高いが、それでも学童期にある知的障害児においても「していない」が3割存在する。

②行っている場合、どこで行っているのか

「地域のクラブ」22名(34.9%)、「福祉施設」17名(27.0%)、「スイミング」12名(19.0%)であり、知的障害児らは地域にあるクラブや福祉施設での活動に参加して運動やスポーツをしていることがわかった。

③行っている場合、誰としているか

「ボランティア」27名(43.5%)、「先生・指導者」20名(32.3%)、「父・母」10名(16.1%)であり、ボランティア頼みである実情が明らかとなった。

#### IV. 議論

本調査結果から、地域における知的障害児の両親の育児意識と社会心理的状況が明らかにされた。知的障害児の両親は、地域のなかで友人やパートナーのサポートを受けながらも、育児に不安を感じ、迷い、強いストレスを感じながらも懸命に育児に取り組んでいる姿が浮かび上がった。それは、両親が育児のなかで知的障害児である子どもと気持ちの触れ合いや喜びを感じていたとしても身体的な症状(横になりたい、頭がぼんやりするなど)を示し、ちょっとしたことで子どもを叱ったり育児につまずくと自分を責めるなど若干不安定な心理状況にあることがみてとれる。知的障害児の両親は、夫・妻の双方が育児を助けているとはいえ相談相手として、情報交換やストレス発散をかねた気晴らしも兼ねてであろうか、一番近い

身内である「夫・妻」よりも「友人・知人」がもっとも多かった(39.3%)。他方、距離的に身近な生活の場としての地域の近所の人には助けを求めてなく、また助けてはくれない状況にあると感じている実情が明らかとなった。

知的障害児の母親は、健常児の母親に比べて夫から尊重されていないという報告(イナホフファーとペテランダー,1995<sup>9)</sup>)や知的障害児の存在によって夫婦関係が崩れたとの報告も存在する(三原,2002<sup>10)</sup>)。これらは必ずしも知的障害児を持つ夫婦を代表とした調査報告ではないので知的障害児の夫婦の状況には言及できないが、知的障害児の育児には夫婦の協力は欠かせないことには言を待たない。知的障害児のなかには、多動や攻撃的行動など様々な問題行動を示すものもあり、核家族化社会が進む現代社会のなかで両親のみ、ましてや片親の力だけで知的障害児の育児は困難を極めることは想像に難くない。さらに知的障害児の夫婦が心理的葛藤を抱えていたならば育児で両親のストレス増大は必至であろう。

翻って両親の運動やスポーツ実施機会が非常に少ない。さらにストレス解消は「おしゃべりをする事」によることが最も多い結果であった。おしゃべりは気軽にストレスを解消できると手段であるとは言え、これらは両親のストレスの発散の機会と時間がもてていないことの裏付けが反映された結果とも解釈できる。このことが更に母親の育児のなかで、子どもをちょっとしたことで叱ったり、自分を責めたりする罪悪感を強めることになり、育児の悪循環を作り出し、強いては知的障害児の家族の危機的状況にまで発展することが少なくないのではないだろうか。さらに、両親は地域のなかで近所の人達から手助けを受けたり相談できる環境にあるとは感じていない状況がある。この背景には地域の人達が知的障害児の家族の実情を知らなかったり触れ合う機会が少ないことが一つの要因になっているとも考えられる。

このような状況下にある知的障害児の両親に、例えば、障害児の学童保育の時間・学年の延長、夏休みなどに障害児の短期間世話をしてくれるシ

ョートステイをつくることなど、時間的、心理的負担や葛藤を減少させるための具体的方策や、知的障害児の家族を取り巻く地域の方々に、地域の子ども会活動や地域主催の運動会やバザー、お祭りなどの行事に知的障害児の家族を招待するなど地域の人々との交流など、両親が地域の方々と協力して育児を行えるような社会的な配慮とそのシステムの構築が必要とされよう。

## V. 文献

- 1) Polansky NA, Boone DR, Desax and Sharalin SA (1971) Pseudosticism in mothers of the retarded. *Social Casework*,52,643-650.
- 2) Nurse J (1972) Retarded infants and their parents: A group for fathers and mothers. *British Journal of Social Work*,2,159-174.
- 3) 小笠原真佐子 (1978) いわゆる重症心身知的障害児(者)を持つ親達の心理社会的状況について, *ソーシャルワーク研究*,4,217-224.
- 4) 稲浪正充、西信高、小椋たみ子 (1980) 知的障害児の母親の心的態度について, *特殊教育学研究*,18, 3,33-39.
- 5) 橋本厚生 (1980) 知的障害児を持つ家族のストレスに関する社会学的研究, *特殊教育学研究*,17, 4,22-32.
- 6) 稲浪正充 (1982) 知的障害児に対する親の意識, *発達障害研究*,4,2,10-15.
- 7) Kratochvil MS and Devereux SA (1988) Counseling needs of parents of handicapped children. *Social Casework*,69,420-426.
- 8) 三浦剛 (1992) 在宅精神薄弱者の母親の主観的疲労感, *社会福祉学*,33,64-87.
- 9) イナホフファーとペテランダー (1995) 「知的障害者のいる家族」, *ドイツにおける精神遅滞者への治療理論と方法*, ゲアレス, ハンゼン編集, 三原博光訳, 初版, 岩崎学術出版社, 東京, 52-72.
- 10) 及川克紀、清水貞夫 (1995) 知的障害児をもつ家族の問題、 *発達障害研究*,17, 1, 54-61.
- 11) 三原博光 (2002) 障害者ときょうだい, *学苑社*, 東京, 134-135.

## SUMMARY

### Research Study on the Psychosocial Situations of Parents of Mentally Retarded Children in the Community

Koji MATSUMOTO

Hiromitsu MIHARA

Hirokazu TOYAMA

This study was examined through the questionnaire about the psychosocial situations of the parents of mentally retarded children in the community. 100 parents have answered the questionnaire. Most of them have taken care of their children very much. But they have had trouble with the mentally retarded children and felt the stress.

**Key words:** mentally retarded children, psychosocial situations, parent, care of the children problem

#### 要約

本研究の目的は、知的障害児の両親の育児意識に関する社会心理的状況を明らかにすることを目的として、18歳以下の知的障害児をもつ両親を対象とした質問紙調査を実施した。その結果、100名の両親から育児意識に関する回答が得られた。両親は、障害児の世話に喜びや生きがいを感じている一方で障害児の将来に対して不安を抱えている。身体面では約半数の両親達が「頭が重い」、「全身がだるい」など何らかの身体症状を訴えストレスを感じている。また夫婦や親族は育児に協力的であると感じているが、地域の人々からの支援や援助はあまり受けていない。このような状況下にある知的障害児の両親に、時間的、心理的負担や葛藤を減少させるための具体的方策や両親が地域の方々と協力して育児を行えるような社会的な配慮とそのシステムの構築の必要性が示唆された。

キーワード：知的障害児、両親、育児意識、心理